

# ほけんだより 3月

2026年3月3日  
町田市立南第一小学校  
校長 安東 深雪  
養護教諭 新井 典恵

3月、慣れ親しんだ学校から、6年生は卒業していきます。別れのさみしさ、巣立つうれしさ、新しい希望で、そわそわ・わくわく、時に、しみり…この時期特有の、6年生の雰囲気を感じます。

保健室からは、小学校6年間で伸びた身長と同じ長さのリボンをつけて、ひとり一人に大きくなった証の『成長カード』を贈ります。

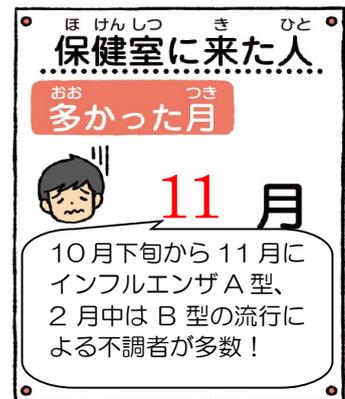
在校生は、学校生活の区切りを迎える3月、この一年間、心と体の成長をふりかえって、新しいスタートにそなえましょう。

校内の感染症状況は落ち着いてきましたが、花粉や寒暖差の影響で、目・鼻・のどの不調を訴える児童が大きい時期です。あと少しで卒業・進級、最終日まで体調に気を付けて、元気に過ごしましょう。



## 3月の保健目標 ～健康生活をふいかえろう

令和7年4月～令和8年2月まで  
保健室利用状況より



保健室利用者数を全児童数で割ると1人平均来室 **約5回**、

登校日数で割ると1日平均保健室来室者は**約1.7人**でした



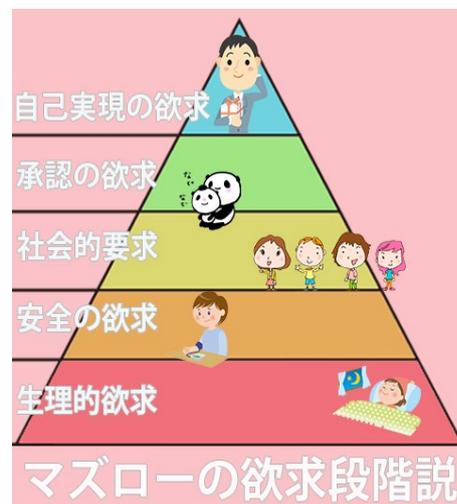
学校管理下で発生した大きなけがは**6人**でした  
(骨折・捻挫などで受診、日本スポーツ振興センター災害給付対象)

昨年の**15人**から大幅に減少。  
登下校や学校での安全な過ごし方、けがの予防  
など毎月の安全指導の中で指導継続しています

## 保健室所感・・・対応事例より

人間は生まれながらにして「我がまま」です。アメリカの心理学者アブラハム・マズローが提唱の『マズローの5段階欲求』で示す段階説からも、生理的欲求、即ち、生きていくための本能で「我がまま」に生まれてきて、身体の発育と脳の発達と共に、欲求段階を経て、人として成長していくとされています。

5段階欲求の中の下4段階、**生理的～承認欲求は、その不足を常に補おうとする「欠乏の欲求」**とも言われます。以下対応事例から、どの欲求からくる言動か考えてみましょう。



- 事例①：自分の思い通りにならないと感情抑制できず、暴言を吐き、手足が出てしまう子
- 事例②：鬼ごっこで、自分が鬼にタッチされた瞬間、必ず倒れ込み、立ち上がらない子
- 事例③：週明けの朝、登校のタイミングになると不調を訴え、休み明けに欠席がちになる子

事例①：必ず相手があって、相手に自分の気持ちを言葉で伝えられない

→自分の気持ちをわかってもらいたい、本当は上手く関わりたい

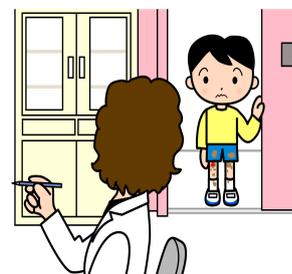
事例②：鬼ごっこは楽しい、けど鬼にタッチされる→倒れて立ち上がらない

/立ち上がれない＝注目してもらい鬼になる現実から逃げたい

(何度も同じことが発生も、毎回処置を要するけがなし)

事例③：登校＝家庭・親から離れる＝分離不安 ⇔ 学校生活・学習・人間

関係など環境にも影響→具合が悪い・学校に行けない(結果、在宅で1日元気に過ごす)



事例の事象だけに着眼すると、「お友達を叩いたらいけません！鬼がいないと鬼ごっこになりません！お休みしたけど元気ね！？」なのですが、同じ状況が頻発や継続する時は、どの欲求の欠乏(または満たしたい)言動なのか、心理的背景も汲み取りながら傾聴し、対処をします。

その際、配慮したいのは、ただ「欲求を満たす」だけでは、その子の成長の妨げになる場合もあるということ。成長過程において、様々な事を経験し、時に逃げたくなるような困難にぶつかり、挑戦し、乗り越える方法やスキルを学んで「やればできる！為せば成る！」を体得しますが、「逃げれば勝ち！？困難からのスルー術！？」を身につけてしまうケースもあるからです。



また、集団で生活する学校では、個人の「欠乏の欲求」に対面する時、それを満たすことで及ぼす周囲への影響も考慮しなければなりません。

自らの欲求を満たすために、主義主張をして、他者理解や協調性が欠けていると、それこそ『わがまま』と捉えられてしまうこともあります。

小学校も、学級・学年と多種多様な子どもたちが集まるコミュニティ＝小さな社会。大人へと成長して実社会に出ていく前に、学校という社会の中で日々色々なことを学んでいます。

保健室では、目に見える傷は勿論、その事象に至る子どもの気持ちを汲み取って、一緒に対処方法を考える「手当て」にも心がけています。これから先、子どもたちが「**なりたい自分になる**」＝『**自己実現の欲求**』を満たせるよう、見守っていく所存です。



今年度も、一年を通し、本校の保健活動にご理解・ご協力いただきましたこと、心より感謝いたします。ありがとうございました。